

平成30年度 第2回

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会 会議録

- 日 時：平成30年10月4日（木）13時00分～15時00分
- 場 所：市民交流プラザ 5F 中会議室
- 出席委員：松原座長、北中副座長、及川委員、肥塚委員、岡本委員、中村委員、堀江委員、服部委員、肥田委員、加藤委員、神部委員、遠藤委員、青木委員、松浦委員
- 欠席委員：秦委員、深尾委員
- 事務局：千代理事、本村調整員、中瀬参事、溝内参事、中西主査

1 開会

【事務局】

定刻になりましたので、ただいまより平成30年度第2回アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会を開催させていただきます。まず、配布資料の確認をさせていただきます。本日の次第と資料1・2、および座席表と名簿でございます。では、お手元の次第に従って進めさせていただきますが、次第に入ります前に、まずお配りしておりますアーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会の名簿をご覧いただきたいと思います。前回の運営懇話会后に委員の変更がございましたので、紹介させていただきます。まず、2番の草津市副市長ですが、6月26日付けで北中建道氏が就任しましたことから委員委託させていただいております。次に、6番の草津市まちづくり協議会連合会の中村繁樹様におかれましては、6月1日付けで草津市まちづくり協議会連合会会長に就任されましたことから、委員委託させていただいております。大変申し訳ございませんが、お二人から御挨拶をお願いしたいと思います。では、北中様よろしくお願いたします。

【北中副座長】

ただ今ご紹介をいただきました、副市長の北中でございます。このアーバンデザインセンターびわこ・くさつは、開設から2年、現在の西友1階に移転してから1年余りが経過したところでございます。この間、皆さまのおかげをもちまして、利用者も着実に増加し、その役割が、ようやく市民の皆様方にも浸透してきたように感

じております。今回から副座長としてこの場に加わらせていただきますが、皆さまと共に、この UDCBK の未来を考え、育ててまいりたいと考えておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

【事務局】

ありがとうございます。次に、草津市まちづくり協議会連合会の中村様よろしく願いします。

【中村委員】

草津市まちづくり協議会連合会会長の中村繁樹と申します。どうぞよろしく願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。そうしましたら、次第に従いまして進めてまいりたいと思います。開会にあたりまして、座長の松原先生からご挨拶をいただきたいと思えます。よろしく願いいたします。

【座長】

皆さんこんにちは。第2回目の運営懇話会にあたりまして、一言御挨拶申しあげます。第1回の運営懇話会の後、大阪府北部地震があり、大きな被害がありました。その後には、西日本豪雨被害がありました。そして、強力で大型の台風が毎週のようにやってきて、異常な状況になってきております。関係の皆様方におかれましては、被害からの復旧や今後の防災に取り組んでいかれることと思えます。そういう点では、災害に強いまちづくりということが非常に大きなテーマになってくると思えます。特に最近では、交通面での影響も大変大きい状況にあります。南草津駅は滋賀県下で一番利用者が多く、影響も大きいと感じております。そのようなことを考えますと、UDCBK が果たすべき役割がますます大きくなっているのではないかなと感じております。それから、今副市長からもお話しがありましたように、西友に移転してちょうど1年が経過しました。人間も1歳になると立ち始め、自力で歩くことにトライし始めます。そういう点では、本日も法人化の議論もございますけれども、是非とも忌憚のない御意見をいただき、UDCBK もよちよち歩きから少し自力で自立した事業体としてやっていくことを考える時期にきているのかなと感じておりますので、本日の議論をよろしく願いいたします。

2 報告

今年度実施事業実績および計画について

【事務局】

ありがとうございました。では、続きまして次第2番の報告事項にまいりたいと思います。今年度の事業実績および計画についてでございます。ここからは司会進行を松原座長にお願いしたいと思っております。松原座長宜しくお願いします。

【座長】

それでは、今年度の事業実績および計画についてということで、及川委員から報告をお願いいたします。

(及川委員から、資料に基づき説明。)

【座長】

ありがとうございました。今年度の事業実績と計画について報告いただきました。このことについて、御意見、御質問をお願いしたいと思います。

【A委員】

資料1のアーバンデザインスクールや未来創造セミナーの参加者の属性はどのような方が来られているか簡単で構いませんので、分かれば教えてください。

【事務局】

アーバンデザインスクールはテーマに応じて異なりますが、40代くらいまでの方が約4割程度です。実施回に応じて、例えば学生が多いとその割合が高くなりますし、その逆もあります。

【A委員】

例えば、学生の参加と一般市民の参加では、一般市民の参加はどの程度ありますか。

【事務局】

市民の方が多いです。

【A委員】

アーバンデザインスクールは5回通しての申込ではなく、1回ずつの申込ということではよろしかったでしょうか。

【事務局】

5回シリーズでの企画としていますが、御参加については1回ずつで可能としていきます。3回以上参加された方につきましては、修了証をお渡ししています。

【B委員】

玉川中学校の展示や立命館大学生の展示をやっているのは知っているのですが、展示した人と UDCBK に見に来た人との接点を作ったりされていないなど感じているのですが、それで合っていますか。お菓子のパッケージデザインの展示をして、それを作製した中学生が UDCBK に来てそのことについて話す機会などはなかったですね。

【事務局】

ありませんでした。

【B委員】

取りあえず展示しましたという状態ですよ。

【事務局】

今回展示するにあたり、例えばお菓子のパッケージデザインに絞ってお話ししますと、中学校の先生方との協議の中で、どういった経緯で取り組まれたのかをお話ししていただいた流れの中でパッケージデザインを展示するのか、あるいは展示した後に感想などを聞きながら今後どのような取組をしていくのかを話をする機会を作るのかを議論しましたところ、今回はお菓子のパッケージデザインの展示だけをしていただけませんかというお話をいただきました。その中で、見た方からの御意見をいただくような場所を設けていただきましたので、その内容を基にして今年度実施できるかどうかは分かりませんが、取組内容を UDCBK で話していただく機会を設ける働きかけをしていこうかと思っています。

【B委員】

UDCBK によく行っているので分かるのですが、何のために展示しているのかなと思います。目的が分かれば見ている人も興味を持ちますし、取りあえず展示をしていますという感じがしたので、展示をすることは良いことなので、やるならもっとやろうよと思います。あともう1点ですが、アーバンデザインスクール等で月に1回スクールが開催されています。先生方が来られて、だいたいの参加者の顔と名前が浮かんでくるのですが、定期的な20名前後の参加があります。でも、それはあくまでも月に1回であり、日々UDCBKは開いていて、以前に座長がUDCBKの役割がプラットフォーム機能で地域づくりを発展させていて、現代版井戸端会議のようなものができたらいいなど、そこで市民がまちづくりについてアイデアを出せたらいいな

と仰っていたことを覚えているのですが、アーバンデザインスクール等の月に1回の講義以外の日常のUDCBKがどれだけその機能が果たしているかという点、本当にオープンスペースなだけだし、何をしたい場所なのかがよく分からなくて、(地域に住んでいる私としては非常に残念です。セミナーはきちんと出来ていて、20人ずつ来ていても、それは月に1回なので、今日この24時間でUDCBKがまちづくりのために何をしているのですかと言った時に、(開設)当初と比べると私からは見えなくなっているということを感じました。

【座長】

UDCBKがどういうことを目指すのかというのがあって開設されたのですが、そのことが一つ一つの取組や事業にどのように活かされているのか、次にどのように繋がっていくのかをもう少し見えるようにした方が良いという御意見でした。

【B委員】

このような取組だけであれば、毎回フェリエ南草津の会場を借りてやれば良いと思います。あの建物を借りて、あれだけ多くの職員を配置してこれだけの取組であれば、お金が勿体無いと思います。

【C委員】

社会実験事前調査事業に関して2点質問と意見なのですが、1点目は、報告会を実施するという話があったかと思いますが、それはいつを予定されているのか、その内容は今年度の内容なのか昨年度の内容なのかお尋ねします。2点目は、公募期間が短く、大学側の事情を申しますと8月は一斉休暇期間があり、事務が機能しない期間に入っていますことと、公募期間が遅くなればなるほど、委託期間が短くなり、この期間内に事業を実施し、評価して報告するとなると、普段の研究等の一部をこの委託内容に関連させるということしか考えにくいのが現状です。せっかく募集枠が5件あるのに、応募数が3件だったということは何らかの工夫が必要だと思います。委託金額も20万円だと単独で事業を組むことができず、大きな事業の中の一部を充てるということではしか対応ができませんので、その点についての意見をさせていただきます。

【事務局】

ただいまいただきました御意見につきまして、事後報告会ですが、昨年度の事業実施要項にこのようなことを記載しておらず、今年度の運営懇話会で御意見をいただ

きましたことから、今年度の要項に報告会に関する文言を追記し、今年度の2月末から3月くらいにUDCBKにて最終報告会を実施したいと考えております。公募期間についてですが、来年度については今年度末くらいに大まかなテーマ内容を決定し、国からの地方創生交付金の補助対象事業であることから6月くらいからしか事業は開始できませんが、その時期を目途に皆さまに募集できるような流れにしたいと考えております。また、予算につきましては、来年度予算要求がこれからになりますので金額について現時点では申しあげられません、今回いただきました御意見を参考にさせていただきたいと思っております。

【座長】

今年度については、報告会を2月末から3月くらいに実施予定ということですね。報告書については、提出を求めているのでしょうか。

【事務局】

はい。

【座長】

そうであれば、成果をまとめていただいていますので、その内容を皆さまに共有していただきたいと思います。

【事務局】

昨年度の内容につきましては、市の関係部署に報告しております。

【座長】

今年度の事業採択予定は10月上旬予定と記載されていますが、いつからになりますか。

【事務局】

採択予定事業について、軽微な修正必要箇所がありましたので、その点が整い次第契約を締結したいと考えております。

【座長】

修正を経て契約を締結するということですね。社会実験事前調査事業はUDCBKにとって非常に重要ですので、なるべく多くの大学に応募していただきたいと思います。

法人化について

【座長】

それでは、法人化についての議論について御意見を頂戴したいと考えておりますので、法人化検討ワーキング部会での報告を肥塚委員からお願いします。

(肥塚委員から、資料に基づき法人化について説明。)

【座長】

ありがとうございました。ただいまの法人化検討ワーキング部会の報告について、御意見をお願いします。

【D委員】

UDCBK 法人化の意義やミッションはそのとおりだと思います。UDCBK の主たる事業についても、このように吟味していただきたいと考えております。ただし、このような意義やミッションについて、なぜ法人化しなければならないのかということがどうしても理解できません。私も個人的な立場として、組織内で説明するにあたり、その点が一番重要になってきます。課題やミッションを抱えている中で、事業の収入や支出が全然見えてきません。法人化するという事はガバナンスが求められ、どのような収入があって、それに対してどのような事業をするのかということが問われてくると思います。全く収入について見えてこない中で、法人化を急がないといけないのかという疑問がありまして、法人化すると諸々の費用が必要になりますし、税の申告や公認会計士に依頼しないとイケないなど、さらに費用が必要になってきます。定款変更の際には司法書士に依頼するなど、これまた費用が必要になります。このようなことがあるので、法人化については今の草津市の草津未来研究所として事業を展開する方がミッションについて上手く行政と繋がれるのではないかと感じています。また、UDCBK を開設してまだ2年しか経過していないので、それほど市民に理解されていないのではないかと個人的に感じています。UDCBK が周辺の塾の生徒のたまり場のようになっている時間帯があります。そのような現状がある中で、市民の理解が得られていないと痛感しています。さらに、大学にとっては安心・安全ということが非常に重要であり、それはまちづくりセンターとの連携が非常に大切であり、周辺の町内会等との連携を深めていかなければならないと思います。そこで、UDCBK がその役割を果たしているかということ、見えてきません。企業との連携も現状では見えてきません。このようなことから、法人化はまだ早い

ではないかなと思います。

【E委員】

私も何のための法人化かという点に引っかかっています。他のUDCのように独自で予算を持って事業展開をしたいとか、都市再生推進法人などの公的地位を獲得したいなどを想定するならば法人化することは理解できるのですが、先ほどの説明の中でありました職員組織体制を見ている限りでは、現状のままで第三者機関的な諮問・答申する部分を強化したり、公民学の連携をしていく中でプラットフォーム機能を強化するのであれば、任意団体のような緩い繋がりの方が動きやすいのではないかなと思います。よって、もう少し煮詰めていかない限り各組織内で法人化に対する賛同が得にくいのではないかなと思います。

【B委員】

UDCBKの法人化の意義について、「「公」「民」「学」いずれの立場にも偏らない意見形成及び提言が可能になる」という箇所にとっても魅力を感じるのですが、それを担う人が草津市から派遣される正規職員と立命館大学、草津商工会議所と書かれていて、その人たちが立場に偏らない意見形成及び提言が可能になるということに非常に矛盾を感じていて、結局は草津市主導だと感じるのもそれならば草津未来研究所で良いのではないかなと感じました。どうせ意見を言っても、市や立命館大学の判断で駄目だと言われるのであれば、何のために様々な大学や企業との連携を目指しているのかが見えてきません。また、先ほどD委員が周辺の塾の生徒のたまり場のようになっていると仰っていましたが、それは市民の理解を得られていないというよりは、オープンスペースで空いていて座って喋っていても何も言われなから良いと判断されているだけで、UDCBKが市民の理解を得られるように動いていないです。

【肥塚委員】

D委員の御意見に対し、予算等に関する事以前の問題として整理をしておく必要があると考えて今回のような報告としております。そもそもUDCBKはアーバンデザインの視点からまちづくりを考えるということを今回で明確にする必要があるだろうという現状認識があり、その上でどのようなプロジェクトを実施するのかを分かりやすくするために少なくとも懇話会のメンバーには共通理解を得るために明示しました。当然ながら、法人の立ち上げには収入・支出等の想定が必要であることは認識していますが、そのことは次のステップの課題であると考えています。「公」「民」

「学」いずれの立場にも偏らないということについては、法人化しないで市の事業であれば、それは市の立場での意見であることから逃れられません。誰が事務局に就くのかによって、その立場でのバイアスが少なからず働いてしまうとは思いますが、例えば法人化によってその組織に出向（あるいは派遣）されるのであれば、あくまでも UDCBK としての立場で働くことになるので、相対的には所属している組織からは離れることとなり、法人化することの意味があるのではないのでしょうか。

【D委員】

主たる事業を拝見しますと、これはもっと行政と繋がらないと実施できないのではないかと思います。非常に重要な事業であるからこそ、行政の一部として存続し、あえて法人化する必要はないのではないかと感じました。

【F委員】

法人化することで事業が進むのであれば、法人化すべきだと思います。その理由としまして、運営懇話会でこれだけのビッグネームが集結しているので、法人化することによって本気でこの地域のまちづくりを動かそうとするのであれば、私は法人化した方が良くと思います。そうではなくて、意見交換会のような位置付けにするのであれば、法人化する必要はないと思いますし、そこが重要だと思います。たくさん存在する組織に打ち勝って、事務局がこの南草津を本当に良くするんだという信念があれば法人化する意味があると思います。費用はその次に考えれば良いと思います。

【G委員】

全国に 19 か所の UDC があるとのことですが、どれだけの組織が法人化されていますか。また、法人化によってどれだけ円滑な運営ができているのかが分かれば、法人化の意味があると思います。また、F 委員が仰ったように、まずは形から入るのも良いのではないかとともに思います。

【事務局】

今年度立ち上がった UDC の情報が届いておらず、全ての情報を持ち合わせていないのですが、昨年度の段階では 4 か所が法人組織です。行政組織が主体として現在運営しているのは UDCBK のみです。また、立ち上げ段階から法人格を取得している UDC もあれば、任意団体から法人化された UDC もあるとお聞きしています。民間や地域主導型が多く、何かしらの問題提起があつて設立された UDC が多く、現在の活動に

繋がっていると聞き及んでいます。

【座長】

法人化されている4か所はどこですか。

【事務局】

郡山アーバンデザインセンター（UDCKo）、柏アーバンデザインセンター（UDC2）、アーバンデザインセンター・茅ヶ崎（UDCC）、アーバンデザインセンター大宮（UDCO）です。UDCKは法人格を取得されていますが、法人としての立場と任意団体としての立場を使い分けているようで、主な運営形態として任意団体として情報提供をいただいています。

【座長】

それはどういうことでしょうか。

【肥塚委員】

任意団体でありながら、法人化もしており、補助金等の受入れのための機能も有しているということです。

【B委員】

F委員に申したいのですが、2015年くらいから設立準備委員会が立ち上がり、その当時は南草津にUDCが出来れば何でも出来ると本当にわくわくしていました。その熱量で準備を始め、まずは施設を作りました。でも今はその熱量が下がり、非常にもどかしい現状です。

【F委員】

逆に私がB委員に申しあげたいのは、そのまま良いのかということです。ここで法人化して、その熱量を上げるという方法もありますよね。

【B委員】

そうであれば、私は応援します。

【F委員】

でも、現状のままで何もしていないのであれば、よくある集団の会議と同じだと思いますよ。もう一度本当にやろう！という気持ちでこのように考えているのではありませんか。

【B委員】

ミッションのために頑張るといっているのであればついて行きますが、日常の現場のUDCBK

ではその姿が見えてきません。その熱量が誰からも感じられません。地域に住んでいる立場として応援できません。でも、自分が住んでいる町なので、応援する気はあります。私はもどかしいです。

【F委員】

私はフェリエ南草津が出来た時に所属の立場で関わっていましたので、個人的には非常に思い入れがあります。同じような案件で出来上がった施設の多くが現在では失敗している中で、ここは非常にうまくいっています。その南草津を支える組織のアーバンデザインを考えようというコンセプトに賛成したいですし、滋賀県で一番栄えていると言っても過言ではない草津が更に発展しないと、滋賀県は衰えてしまうと思います。東京から来られる取引先からもこんなに素敵なお場所があるんだと褒めてくださいます。草津がもっと頑張らないと滋賀県のブランド価値は上がらないのではないかと思います。そのようなことも含めて法人化を応援します。

【副座長】

皆さまからの貴重な御意見や御提言をいただいておりますが、UDCBK は草津の未来を皆で考えて市に提案していただきたいという思いがあって設立したことが原点です。先ほど御説明いただきましたように、法人化の意義やミッションや主たる事業をこれだけ明確に示していただき、これに対して市としてどのように進めていくのかを今後市の内部で十分に検討しまして、運営懇話会にも相談したいと思います。やはり、市民や議会に対して法人化によって何が変わったのか、あるいは事業の継続性や資金面、体制面などすぐには解決できないこともありますので、法人化について市として前向きに検討してまいりたいと考えておりますので、今後も貴重な御意見をいただきながら、より良い将来のUDCBKについて考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【肥塚委員】

主たる事業は社会実験事業として2つ明記させていただいておりますが、やはりUDCBKとして具体的な事業を実施していかないといけないと思っております。それに取り組めていない現状を変えていかないといけないと考えています。それを市の立場で取り組むと、どうしてもそれは市の考えに基づいてしまうことが否めません。UDCという独立した組織の考えとして取り組むことが必要だと思っております。それを市がどのように受け止めるかということはまた別問題です。まちづくりに関わる

具体的な事業に直接関わって意見することが UDC に求められている機能・役割だということで今回このように提示させていただきました。それをどのような組織形態で行うのか、法人化することがどれだけ意味があるのかということはまだまだ議論が必要ですが、その前段階として何をするのかをこの運営懇話会に提案させていただいたということです。

【A委員】

法人化されている4つのUDCの情報をいただくことはできないでしょうか。その情報を基に、先ほど御説明いただいたミッションを果たすために法人化して独立した組織として実施する方が効率的なのか、あるいは市の事業として深く関わっていくものであるからこそ市と繋がりながら実現していく方が効果的なのかという判断が必要だと思います。法人化しているUDCが事業を実施していく上で市とどのような関係性を持って、どのように実現しているのかといった情報をいただきたいです。

【事務局】

他のUDCに情報提供を求めて、いただける情報はこちらで整理して皆さまに提示させていただきます。

【H委員】

各町内会やまちづくり協議会はUDCBKのことを御存知でしょうか。

【事務局】

UDCBK設立の際にまちづくり協議会へ説明させていただきました。

【H委員】

皆さんまだUDCBKのことを御存知ないと思います。会長も交代されているところもあるかと思うので、また詳しい説明をお願いしたいです。

【事務局】

承知いたしました。

【C委員】

UDCはまちづくりを考える際にはインフラのようなハード面から考えることが多いと思いますが、どちらかと言うとB委員が仰ったような地域に住む人々の気持ちのようなソフト面が重要視されているのではないかと感じます。その点について、行政の捉え方と現実や生の声というのが違うのかなと思います。それを合致させる提言を市が行うのか、あるいは独立した法人が実施できるような社会実験事業をする

のが良いのではないのでしょうか。社会実験事前調査事で助成金を出すことよりも、そのことで何が見えてきたのかが重要で、それがきちんと見えてくることによる市民の声は非常に大切であり、現在実施している事業と現実に齟齬が生じていたり、助成金額が少ないことから実施できる事業範囲も狭いので、そこを民間企業がもっと入り込んでいただくことでさらに変わっていくのではないかと思います。

【座長】

本日、各方面から御議論いただきまして、今後も継続的に時間をかけて議論していく必要があると思います。その際に、どのような論点について検討することが必要なのかについて、本日の御意見を踏まえてポイントを整理して次回に議論していきたいと思います。本日は、UDCBK としてどのような事業を実施していくのかということを確認することを目的として、先ほどの報告で鮮明になったと思います。そして、その事業をどのような組織で実施していくのかということが議論のポイントとなりました。法人化することによって何が変わるのかという点について、今後さらに議論して、共通の理解を形成していく必要があるのではないかと感じました。また、草津市との関係について、どうあるべきかということを見えるようにすることが必要なのではないかと思います。報告にもありましたように、都市計画に密接に関係してくるので、草津市の都市計画部との連携が必要になりますし、UDC として行政と少し離れた立場での関りが重要だと思います。加えて、独立した法人を立ち上げる場合は、事業としての継続性・持続性が求められますので、そのことについての見通しも必要になってくると思います。このように、本日いくつかの議論のポイントが出ましたので、その点を事務局に受け止めていただいて、整理した上で次回に繋げていきたいと思います。法人化検討ワーキング部会の報告ですが、検討をどこまで議論していくのかを考えておく必要があるのではないのでしょうか。このまま継続するのか、あるいは議論の場を移していく必要があるのかといった進め方について、事務局と検討していきたいと思います。本日の議論については、このようにまとめさせていただきたいと思います。

【肥塚委員】

法人化検討ワーキング部会について、このまま継続するかどうかを相談していただき、場合によっては一旦そこで議論を終わるということになることもあるという認識でよろしいでしょうか。

【座長】

はい。本日は、法人化検討ワーキング部会の報告を運営懇話会として受けて意見交換をしたということを踏まえて、今後どうするかを検討していきたいと思います。それでは、本日の議題は以上とさせていただきたいと思います。皆さまありがとうございました。それでは、事務局へお返しします。

【事務局】

松原座長ありがとうございました。委員の皆さま、本日は御多忙のところお集まりいただき、改めまして御礼申しあげます。本日いただきました御意見を受け止めさせていただき、次回の開催までに委員の皆さまには御提示させていただきますのでよろしくお願いいたします。次回の運営懇話会は、来年の2月頃を予定しております。本日いただきました御意見を基に、来年度の予算要求を行いまして2月の開催時に御案内できればと思います。また、法人化検討ワーキング部会についても、来年度どのように検討の方向性を定めるのかを次回の運営懇話会で皆さまの御意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは、本日の運営懇話会を閉会させていただきます。どうもありがとうございました。